



平家物語卷第九目録

本書はいさうかうほく、しやううく人事
りくまに床たうつれりけききられり
ひだにまは川口たりの事
せと没もくくすもあいられり

うちゆのまわきの事

まはる國すそづくらごくとこなもゆり
一びたふうきんのむ
うちは平次うへり
きいあの一たう一のあいをそもうち志よば
ひよけじよせ事

うちのうとたくめりうみの事



えさひそやうものゝことりふ事
小宰おぬせはもとゆる／＼ほいれ、

平定回疆方略卷第九

卷之三

本書はいさうかほてしやうらくの事
安治三年五月一日院内清和を大せんかと史が
まく、六家のようやんのくもよされ
を活取めてひそむりてある所まできりふと
とこかられまといらふもゆくやんめりいな
あんしたひませてじもつとこなしきと平安を
さぬみの國やしぬみのよゑびしきを年か
はめより角をえ日え三のまへえもくもくと
うすせんてんびとくとくええれ
くもゆいもひもひにてういもひもひりう
もうきすひれためそもらひきもくをそれ

うとお部までやがくやなつづくものと
わざりせひ等のまもえどりぬまとうの
くつきとやはうつふせつりものうちからりゆあ
くもすゑひんをさうこりからくちこめられた
れむらしてうんくどうるくすまううんじ
いの柳ちうくをうてなんしやくその柳
くらくすふとなりゑひうたね川和三い
かくさんさんうきゆをあふあもじゑもを
きき川くじしきくやあくくうなうゑと
事せ思ひかづくもきていたくなうゑと
くうくみゆふそくもれたる月五月十六日
み本寫代えぬのうと發行院に詔書すと

まゑはいさうかじめよ西國をもつかうとアキム
トセヒコシマズれされモアヒミまで取て用意固ま十
七日すすふ門出とゆくめりほと又東國もも
本寫けいさうかじめ丁教萬字の際まで元氣く國
いせの國!つぶぬとまくしりもつかけくまニ
てもあくとトのうとくまくまく三つかり
やうのみれ平へりわうりうけりすえそ三すれせ
さいううひうひうれきれきつひくらの二えくみう
みえ面うちれはううれて打ち八千歳人らの内
のゆりうれくもやうかわりや寶要しとせめ
まんしてけうけの今わの空赤とひくよ七

西よりとゆうてせたとゆぢによひあられあ
つるまほたる月山のニ高五百尺にてうち
とぬまふかひひうちもとれ三歳せんちやうよ
しめりげうじうの三歳トヒロニ百余步にて
といもうひとぬごとにじあらねたり东ふよ
とひがれうじての大将军うづきのゆきうと九尺
けさくともせじ六方トアモヒドクノ段ふき
あをきすくすゑんじてふえゆうな馬うりうまい
あうふれ良所トシトキうらりう源をうけす急家
うきの里やうのすうらりう源をうけす急家
アソシケモトドクレそほるをれぬりもらん
呵めれまいてのうんときそりなふうととらぬ

るりれもとてまうすみとくううひてされ

ルく本四床下つれづけとくきめれ

うれのうれしがれ四床すつれぞこまよよありた
こぐるよひやうのものの中まれ候よけすぬも
ゆつれとえたもさりげるそんむれらくさく
まの源ニひくいもふきぬかうととのくはつる
ゆきえちきうさりえれを平治ハうづん
ゆともとて金とすてらうしんじんりりうひのゆきえ
ゆつてのやうこうちんをうきり今度まほ川と
たひくえれらえたもやうひれりんうくくれふ

まも候てまつりてうるうへく思ひゑん立
きりてゆりゆをあんとたうつめや活川よもち
らとみゆつまきひりゝ人ふえれやもれた
とぞ原ノウス人ひまくまえりとせらされ
いもうちらのをんらくとゆこりとせらけ
うんとおほゆまれうへと。まろとそんと小あ
れひやうとひすけゆきりよくきじまやうのやゑ
ひくそのゆひりよち種アーわー／＼もく種と
おあえてすもづれくふうえ／＼あうは／＼アーブ
りくらきづらは／＼源太づけたた／＼ふくふく
あつてもくく馬をとせり／＼いくすおと云
うすとそくをえへんひよ／＼思ひくのくと

ひのりのいそめりくらよいとひをもとまく
ちひ、せひえとくとくとれけりやかうあ
すふすすすえふまよひとくうなうせんれを
候てしゆうかわゆるせせく祖アくわくわあふ
れ馬よもゆくとんへくとくきてこぬまのニ
こうひのけとくふねりのまみひきもくあまふ
らわもうりんきてとくよひろきうまーあつり
とくくわひうけよせがろつせやようけてそ出
まくわあへさへとくとくのとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

四百段うに赤あられ馬のうちはあらきす
つとみてをくわがえもかくわしなれり
をふうにけよもてありてこまにちひば事
じういのんに次す月れ今度りあをを教かひうり
本居の四十五とゆる今ぬいくらなうねの
ぬふをしりゆくまほ西國よくとて卒業よゆふ
つみのやうからむなむ之川らうのせんしきり
う二歳のやうからつまうきの通せじやう
ゑ衆清さてめと改とくじてとがんとこそ思ひ
けぬよあきほとアガリひりをられまちでいく
内してとがんとてけりくく京を力りりてせんか
せんすくあらくまでそゆまをひくんで

うちをもうちうますひ二人うて大事
をみへますりこのふうんやらせまうんするも
のをみてうひらむすうさゆき御うくらうのけふ
まううらうらけり思ひりむとひよみあようそ
てやおとくとくとくとくとくとくとくとくとく
けすれてふはとくとくとくとくとくとくとくとく
えのけりとさゆくとなよりされあの人もない
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
あもせあれもちらともまくとくとくとくとく
ももうつらはくのまきほんたらもせまい
そのケハシトモモウんとくとくとくとくとく

ひくそかまにゆく

ひだにまほんとなりへま

源氏六万貫の國も二てより、あれ
て大ほん大将军よりまつまの御内侍しめりも
すあひそくふんぐんぐんくそくの太郎の
ぬすくまえの二床と紙うすす小二床なりえ
よ一束ハニ床とまきづくまてニ床とせねば
そもの多らぬみややドかぬやマタのく、ミナ
ひたねまきづひん二床とひいぢやく、いや本
店のひいぢやくの三床をまきづひんの四
床とけとまきづりのふえりふをまきづひんの二
床とけとまきづりのふえりふをまきづひんの二

やがもふれりしめ、アヒトにてゆ人のしとや
まつまくとの珍ひされもむさーの國に住人、
あふれしやうもきよううすすもやうふる
あきぐくとて今年せ一かきりけりすくみむ
てアリムヤさくへもこよテモアムクシテ
もキミルモシ物と曰はもだふうにあら
アハツテソシキテシヘリムアムスの多
アノモテなれシツヤモタヤモく承ひテモ
たまう月とモワコシテ事ヤセくへみ一とセ治
麻のうきん小ウツクは又太麻行けなうす
ハ、いとあわらとワニタタク、鬼神ナニモ
トもうとあく残モモアラクセカシウルヒル
してみのりしけやうて夕のうと日
のじしてス面をきまつてみそ夕のあよひや
うとう院のうとううちもかのこしめ、されじ
モぬかぬ禪の法あむきじもやじう二れりしきふ
達一人モココミの四名一人モうちは源太りけ
さきすうすみアヘリはまてひけくうに
テキシム人先とあうひあれもケモ游モむほくま
アヒムテラスケモクタマ、足モアムルモア
きれぬをくや思へぐんツクふうちツク日本國
ヨキヤね泊西國ヨキツクモムク日本二の川
川ミシヤサムル川セムももももも

てゐれり一トミモく下シのるひげひ
れもひのふへひくみゆミツ中ナよそく
まうアアやうちもめふかとのタヘモシれ
うらはハさもきらんシテまつれせと馬ヒのとゆ
ノノふうちとくシテひばとれあふ見ミほ
けいもモうとモニモモニモモをひえとめシるよ
内ナくまつとシテゆふとシテうらへ
れのちはハあきシテくくそシテ正マサくシテすゑ
とたりうるやうれえシテうらへ
【】シテきぬシテわくシテきくシテそと
そうちへる野シヤウさんシテめりくシテそなよ
ひぐれシテのうこシテゆくシテ大川オカれ
うるせりうけてあやうちそれと云シれをみ
もきくシキにわシしきりうと中ナキシテモレ
うひヒふとシテまシテとシテそシテそシテうきと
まれシテとみえシテうりうれシテとシテきシテく
れあじないシテありうちシテつけシテとシテよせシテ一の馬
ゆシテあらシテのあシテよシテけシテたシテふシテいた
ちとシテぬシテ、ゆシテくシテうシテさシテくシテゆシテとシテ、
もやまは海シマれシテもすシテすシテ一りんシテよ
せやわシテして思シテふシテおシテうシテうらシテ、
見シテくらシテしりうシテりうシテの海シマよシテたシテなシテ、
じまシテれりシテありシテありシテの江シマよシテたシテなシテ、
えをシテむシテうシテうシテをシテねシテねシテねシテ海シマひシテ

ちとあそん二ちゃんうらはすと口ふるもつあられ
りうちれあされそあれそあうきをすうすうつこやふる
えりくはいぢらのうととせんふやうりきてなみ
りけくはいぢらのうととせんふやうりきてなみ
いをに國の経人さうの源三ひくとくわすけ
西赤たうつれうちつとくはせんらんをやうそなみ
うけくはいとまよとあだくはせんらんをやうそなみ
たりうるそとけ山もやうてうらへてわくと
黒の山とてひつひかきとくは山のニ赤あを
なつまふひくひくととよつふりきと馬
うへとくのきくれをうきよすうの見とめ
ふくとくうよとくやうたらえりとをとくと

のてゆふふわうりてねりきれやも事とと
きすひりひのきしもつてくにくとあ山の
あひのゆはきんとれとれとれとれと
まくゆうのやうんせせひてゆうじみてみげき
大の男れれもくわひふくとくとくとくと
てくふくとくとくとくとくとくとくとくと
つれとくとくとくとくとくとくとくとくと
あれとくとくとくとくとくとくとくとくと
ゆくとくとくとくとくとくとくとくとくと
よおひのうとくとくとくとくとくとくとくと

わあくーの上よきうけああくーくびと
まいたぬきをやらとぬりとまくかうて武藏國
れ往人大きの二床たりの三毛はねや治川の
せんちんそややかのまされもくふくゆくせよ
しな一もうふちとせよらひげうしはくがけ
ふものまうゑのまうてうちあつゆらゆよと
馬力ひいなしげる山田の二尺よつとづいて
三尺みすのうもと云うもとくとぬま山田れニ床
よそもくうひうとぬりぬまうもとくううう
たりうれまく山そりひいやうり山田の二尺
をおひひじやうりありもとくあくふうりなうう
きて山たやうあれらふくうならうちうれ山た

ううそおだりうんうあくつをぬまにつけ山うう
のゆこくまゆでの里たへうけすうりとそれと
けふ是とけうどもして二万えふさればつまうの
ともういとくと月と見てうへうへうへうへ
やえうううともる人よせんれてゆそくとよとた
たをうれなううううらけすゑひうとくまうの
ええあよやのひまのせううううれもうたぬれま
うのゆ半六あまうふんも馬たともなれらけ重代
つぶ月のゆああたとくとつとくとくとくとくと
きゆのゆくはくふとくとくとくとくとくとくとく
さもううとねうさねもばくとくとくとくとくとく

さへめのうのうんくろりのまつもみ
やも事とえせぞうふうのとしもとひこぬけい
じあのそととまうがおつるく正らしむわひと
山めうふ面がれもくみくうをもヌタれはくも
うなり不ううりううひくもくした山ナムミトエ
てゆうゆけふまほもねりくやぬきトケリセた
のよましいうの三名もきなうらうくもくよ
てたかうみのなうのセとくうわくもくに今ねり
勝七百九十九までぬごくとりをうれりす三方ふ
すもくおうおうさきひくよたーけきをじみれ
もほく耳くやぬきふうりま害せうちせにやぬき
ぬとくしてううやほ置きもくもくきてよいやく

ようこそ。やあや一ふよなりてひやうされそけう
ぢんふよキトやせよんとそろくやんのぬれも
あき坐けるうそりまてくれすくふほうしやう
ち大からせ余つづくまくうれへぢりとぢり
ひとづれはくとやだもつれりもえてやく六本城
のく印つましとゆく本當き六本までのくちか
れふよくうくと見うめたりうるせのりとせうら
もくとあらうとせうれくうふみうもくとや
りうれはくとせうありのゆりふうがくえすくふのう
やうとみうれへてはよそもりのうあいゆよじ
せうひなうとくうれとも本當りばもりとられ

まうなれもまうに先輩をさだらちてまうまうせ
ひもんうてやうではつはまろてう勢よきりま
そあき死へて是を委付とすくじるといふと
おもわれきれそやうてゆつあひ國の役人を
人不承ひろすみとさんとくとくうれせひの川
三百余海をもととまでかづけいて見るくもあ
つもゆくさうんづれとくありてえむらたせひ
力やまうてとびきひもやスナホのりそ
すえうきをゆうに老ニされりて小ゆゆそと
せうり十人もちくしふはれスニホウリカ
と一人もしきやれゑあまきひわきりらくと
うつうりひりそひとくこぢんひせいとや
まうなれもまうれをふうれやうえりふそ一
やぬきをうきをうんへうきうすうううりよや
うてとめうきけじてうあらうけく九席ほあうと
て沙原のひぬけり五ふよとてうせん紙そ共
もふせう来てー／＼六ふうわつれで院のは
よるそまうれうり拂ふまき大せんの太支派の東
北祖からわふく（はきがるむしや六えはまくも
の六て）とすくをまうくるとすくあくや又本當
かありひやまくつりうらうまふとのはひも
りんもうこすくれも活潑もふい里よむくろつ
きをひくううふに天とんをえううひひ

もうちふりとれまをみれてとふきりをすくまし
もうちきまくまくらへ、よきみくくりるやいやは
をみそよとせはす、つまふれしとて背
そひつうまぬも今日あらひなるお國のつとも
のとゆがるはとPモリてモルニヤウシテ
りんのあふづくらちでもう國のひやうせばすの
もくやもうトやてい九赤くまんらやうりつゆ
治のゆといがくして東とくも由あさんかへられ
アヤのくらわりとくりたくわきりかくきと
くふけへうふもくのあわうあ下里かくもく
ウとくふうんにつけりうれやもくくきと
まこゆふとすれてくぬくままでけりがゆ

たれをやうまうゆくも門とひきてへもくび
きくみほさう三八。このゆのいやううくよをあうら
のすきのひくきよくれないをくあめくわひ
とくふべいづよのとくもくちくもくわくらた
うちもふせ四ゆくも大中くわけ矢くらた
つふゆひ乃くゆくもくめくのうううとくひく
さ一すよくきてとくううらひくわくきたまされ
れゆりき大ね軍のこれしらもみえれのこ
あふんのきのせとくろひようえ、ヨリタれと
まよやうゆくつ大中やうじよゆひやうらす
桂木本のれんしきくをりんうてゆゆ
あひるそれとのうりきぬの一こと。やまと作ら

連あれど大將さん九左義經一人をあふるの圍山
往人所見たるの源三ひくすうすと、又良子川
れ一人もむさしのゆ人役人もさけ山の三やうと
あまよすすきやうと、ニ赤毛をぐく一人もつ
もよその赤毛をけりとらちやくと、小太麻ニア
ぬこ一人をつらげり平三ひくねうちやまと源
太つりすゑ一人をらふやのしやうとしあく小
の子よしまれざうとけつけとくんくふがり
て遼上不町ふとだれぬゆうとしお大ゆか
ちがくつきれく成患とりとほうひこのあせと
ゆてつゆきりをもとと、Pされげるをつぶき
うのひやうゑれすけ本當りらうせむの事ア歌里
をよひゆうとよていにうのなみふもやといこ
人なりじりとつひふ六方すれとゆうとての
うじいせまはせたと見てふうとくのれりうも
せよのてよていのいきとあり供りすゆつひ
や活れてといぬとてふゆみばび海きくふゆ
きうもせえん志とふそ一面おほきものごいよ
うはくわもてものけつてひげくがいをさばきさ
てうちもひほうんと事もさけよそくされあ
致天もなのを川すゆうしりてゆうそ門へく
ウてこのことをとむかせられやめて、トシく
りんくとくくと、のうをあつてのとも

とやひよつねよ詔乃、一二子きもせうて西
人ゆりんとうもくもてそのうすまうくるすをたむ
もほひやとくがくめこれ云々及上人女房もう
もあじのひそくふうおうめひそくも詔ノ本書
を二面もみへせいまて太陽へゆふうへもん
くくふくうひりうの二面足りりめりほくせ
いき又オキモロコ小おおそれソドモハ
ねもふれあれもれもりはほうとくもまよヒ西國
をうとうもやふえられされやも六角なるを东國
の名はも系もて一わやまかうもまくられもそ
達もうれづえ大せいかくのようあへて食とそ
ぞうちくもれうりふつるへとだふうりたり
ちし今ぬじたぬやううきうぬとううせうち
このうちも一等すてもうつうのうもならんとらき
つうふうさしぬくまとてふりん事すうううり
きさるももつま一廢いまぬうゆくゑと見えや
とくううとのうりよもくせくつもものとく
ひつじはくやあもせといひくわもせと合きて
六家ノはや三家うりのうひくよと八七夜
うとううううううれえれふうえもくのうううう
も三十六日うすううちかくらえれを序卦小也
さといは三三てうううううううちもさくもまた
くらえそくうううううううううううううう
百九十九もくうううううううううううううう

れよそりとくく七さたまうふうりあうてやう
のこひのそら思ひやられてうそれよりせまう
ちの一きもやうりをといあうまんがふそやうも
やうゆさうて二人の女とめにほりれりやう
をせば二三のをんがみめくらもよしもくうり
方うひなふたらうめりかうくふおうく
れ上をきり本書きとまうもの庭うふしやうく
ませ馬よめきていくきよくうくうれり
不いそと一交もくうくめうらもく本書きそね
の内うくうくてだんりちもれつとりんとき
又うあゆくふくうて小國をだもじくと云考
もわりされこそ今るうゆくその肩行はなれふ
せたのくくをとひほくよたけのうりうとのも下
まもそへふぬれ四床をかえとく今ぬを七面すれ
くせいてごにせぬまえよびくふよらけふつ三
才ふりうすりすりふされくふまくまくに都然
してゆがみ程うすり本書きありゆひ一ちやうけう
きりまうひよそうやうとづけてあれもこべだ
のゆひうるを教説うてつもなるへうもせれ
ば方からと今一そみんうて教説くみせれ
しろと見せてもうままでのうけくさくうりと
くみひぐれもいま卦アリもくせたう
ちしる仕事もくいほううきの持物くそく肩行

くさんのかと見てその通りありまつたみゆ
もつげいからあらとあるとやうと見てたのう
きするも日本でとくとまくうん本書はくさん
をやつともめのもめらんとあれりの源のよ
かうとあさひのしやううんみれりとの義仲や
ゆく死城をうひへてうのニニヤマトマケト
なううううちうみてひやうゑのすりえせとの
活ひあれと一衆ハニ麻子と只今かがりける
や大ね軍をめどもれもうれかうりとまやせとあ
らとけとつしものともつうもしておとくと
まれをあうや事やもとすス面すれりせいか
て大さいの中ようううわうり东をうりつと
みちとあをつまとう底とくんくうらやす
てうろくつてがたまくヌタキムラとおぎりよ
りうのねうきうひの三面トテモヒツを
だりけくてもうらやふてつてたれと三ナミえ
ひうくわくわくふたりミ外面既ニ面ヌ三面ハス面ヌ
ひうをだりけくとくヌヌヌトナリだううるヌヌヌ
ちよももせもひまきひあランアとううりと思ひ
タリとゆ川先ひまほめび海をれそのやもひれ
トトううり矣た游つふくれそうえのよりりてた
たうひうりあ、小笠原國の役へぬこのハ高だめ
をきとて三ナ人のちうらりうらうとのうりう

とつとよつひりふを本當ねば汝内ノヤマニ
とつとよつひりふじもものめつなりとをそればれ
を行ほとれ事のううてみくんでりけよみて大
将くんのりえんすいわんとせうきり我くじ
見もなんぢうもまときわすむちあるべて
えあくがうけまゆくみけふよとも要ううれ
ぬの」やううとまねりやまかしめのうち要ぬ
ひづひぢきうひよひとすかまひときて
白うげたる馬ふぶろゆくまんのくとまえでそ
ねりだりけうされやそがうらをやぢりひて
うのゆくまくまくまくまくまくまくまくまく
あうりりはまうさまううううううううう
あうとううとうううううううううううう
さくくじこをそくらまれつひな波トツコト
帰たつもあひひじなつ、こまどりあうねよもく
してらふよりああ二ぬま三ぬまわるもそそ
しらうぬく人丑小鴉あてくとももくとけ
く思ひたよりあひひじなつひしや游らきりあてくと
そみかぢりくよもくよもくよもくよも
もそくめうめうめうめうめうめうめう
せんを里よきりゆくとせんらをせりれもくつう
をあひ行ちゆくてうのうひれくやもく敵と
なうしてだくいはくまえをせよとすくさうと

まことにうちのひき入社を詠みなれどう矣と
このまゝいあぬふうでまんなりのこゝろとそんやじ
けよくちわづるつるてしづちぢちよとのゆゑ
そちうきよすわものゆくわんしりゆけた
うかふよともれくきま内ト小ぬふよみぢらけ
マトリキホムコトテモラセくとそくもトゆふ
たそくすそすりよけろて山づれたふをうらし
トシヌテシのんも山づうを漱ぬひや、をそ
せける今を本書と今ぬほりやふうれひり
そ日ひそゆせねくぬまに月のうふをなとや
うんよだもくなりて背シタのうりやねく
あわくつ下井よりるそいま津力とよけりせ乃
すすへるもつくれひりすなかよすよみて一
の晴きごなるの晴ハておもくへりえへえい
ぶをせどいをひもねよせほうとまくうひら
めあねのう一人頭をすゑ方きとがくウ
トあれよそくいはくわくねほくとよひわ
きあひらうあひてあくうかほくねほくとよひ
うへおもすうゑひくま七ハづてこしてえ
王娘せれやもとみてを結ひはもんせやくれを本
その下さみりうを玉達六承ノ付うてつうも
うるをうきうもかんらせ一ふもてつうもな
うをきうももかんらせ一ふもてつうもな
うをきうももかんらせ一ふもてつうもな

やもさまひされしよすかぬまもせだりまそ没力也
けつまよけまてゆりもやくもじゆひつり
か、ひうえやうとてくもともじうめとれた
くまうくひつもな、きせれきすまでいへん、
てゆうえ書くとあもう人ね原のゆゑあるの
くらはとじあくもあれしをうち、とうへ
ありすのうつばしてそおちられくる。はい凡
ふそひ下からりゆりたせへのゆききてうり
ぬで大をんきやうきてふれりりふそ本當の
ゆめねとこふい下ぬかせ、赤つむひとてつた
らぬもうるきのうりうも三海めされもろうる
とそそひうらうらとくひうのあうす
あうんやせりひられきつしきのとくとくと
うんえやされびそろをてうにめ引けめうん
くもいきれどうひよけまをううつもわ
まとねりてもうくとくじく、えれれまでもうい
こよやきそくとくじく、えれれまでもうい
れらうれ、とくめりつれねつうとくとくとく
落ひうりうらをゆねせ一日へゆひけくまの車
まれ、ようしりともううとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

あをもひてとくはやふよひまていまあ本當沒のゆり
うふれそもぞくとくもううふとくひひが不
トウカへりちはきふもとくつふとういはきふれ
ゆきせりりけとくへうちほりきゆひうちされ
トふとのまううがくくめまんわよゆりつてく
所やうおとづくたうわゆう三えれらうひて
まきものく首球をもてたり首球といふうた
られきつたうけにうけぬきてゆうわきたう
ト一匁が國小物小神のやうアマモ修さきそね
のほをひそみうのいと匁乃ニ赤くあひのけり
てスケ子けをひてゆくもうれされやれやれう
されそとす井一トとまくとまくともやうくこ

えんりれいまたにまくはうともんたぬアリス、いき
さよよすくふべてまうひのうやひうりてけの
ウトナリんをかうふくらえぞねも三十一けき
エホカのまうまくがくらス、ゆくやくへ川らぬう
連をそう努るりえぞねも三十一けきのゆ
音三才ニ本居とつす井のうきてそあもうのい
きそを重くかけらちねすられ國井のれや
はわりけり。せめさせんそくふ面よきれどいよ
てじよとくをくるす、達人なりのつゝやう井を
打ちてたてるもれひくらけとまくせありふう

きく教よ。かくさうりとまこととてやうりりりり
れよいまわう下人ゆうりといふらぬよアさんと
てつらうり方。れべトあほとおもへだりと
はすまでゆふわひぢり上もおがよあもうてう
たまえせゆひぬ今井ぬそゆ三うひぬとゆりと
ひくらをまくへやんくまくをもわつこえん
をれ余おろちをんをももりつがへつもお
らゆみてゑのゆやまとどもとすひまりたまく
又えよむゆ思ひわくわんくもうねうづみさ
れとて都ふりへうりふすゆへしやや
あれとつとものとも是とまくわくよくヌナふニ
十ふ四シテ四十三二ナミアシヒツスの

とふとせううひとるのびうひとゆうじにたべ
とゆうてそれぢりくくよもうなりよきれいく
ちうせうす面すれうもゆうをせうのけうり
みうのつんうとそめうふせえんうう小うりよ
うりいくらうりうも今い泉もへゆうううと
あもううけもみかあるはけりを子せじよひく
ちうようちかく太家と云うめうりたせうのゆく
またもしういてうひの一泉のてやあうまく
やうひもれとくまくヨリひくこそのゆく
めうれ一泉のてとくがふそいきよそまうれぬ
れにまもれとくまくヨリひくこそのゆく
ありやうめを四シとゆひれともやもいれ
れにまもれとくまくヨリひくこそのゆく

正井仕へらばく火吏みのひのすけのうちのた
翁鬼義よりちのまていりり足川よりのおとふ
らめく七名、中を一束段の内よひ又足川より
の子やも二人をもの上まうとくままでひり見
けふとよもとむとてつうちそくとてやふ
もうちとんみやうとてむうたれりりもとくけ
のんすりぬゆりとらふゆくとん七名のゆるめ。
てうちとすと子やもふぞべらんとくふゆうと
もうやれとくふ紙をみりよすとてやたもねせ
きてとくほりあうとほめりけめさんくくふい
けふまきやうのつととの三さいおとくはは
ちゆのゆやとまつし太陽のゆうすひうげへて
うんくよくひうるつゆこえ二きくとてや
志はもえれうちとて、わ、力をとよくとて、
ひてゆうゆうらうとて、う努アリテ、
や、やめぬものうがうとれひきられ次承を
ふ、ぬうのじとうりうらこ、うたうつひり
きゆをやうきのひろきやうりうんとくとく
うちん四一のひまが、かもやくめももくとく
も思ひそむらんと思ふゆを乍りされ五とく
からうの食と見てたまひやうてひくらうもと
あひよ、ひうとくとくうれひくらうもと
にひそくのひとくとくうれひくらうひく

けんちとものとくよと城のふひり人。じうきり
よされ大ね軍のまのほゆうし。九月。かう。小
けい。秋。秋。かしやうて。洗。包。まされ。かう。くも
て。かた。もつる。あま。う。と。洗。包。まされ。かう。くも
また。そ。本。考。う。ほ。経。ち。没。を。よ。きて。暑。と。せ。め。家
ら。き。け。そ。の。こ。う。き。う。そ。れ。き。れ。し。小
せ。か。の。の。こ。う。き。う。そ。れ。き。れ。し。小
そ。れ。や。あ。成。て。あ。う。ひ。そ。か。と。な。う。ふ。と。
あ。れ。れ。れ。ま。ち。う。ら。と。よ。も。を。み。り。す。さ。い。う。
じ。う。ゆ。こ。ま。り。れ。同。一。ふ。サ。二。日。う。ん。せ。り。し。や。
よ。の。ま。え。う。だ。め。う。れ。て。さ。に。ば。き。り。ま。う。を。湯
ぬ。う。へ。え。ん。し。お。も。う。の。圓。白。石。を。浴。そ。う。
の。は。見。り。う。か。さ。う。日。う。う。が。う。う。う。う。う。う。う。
十。日。也。六。十。日。と。そ。下。な。う。う。れ。や。ト。下。せ。ら。え。も
あ。う。う。そ。く。も。う。り。思。ひ。が。な。ふ。ま。そ。う。す。け。う。
え。空。日。本。考。う。く。ひ。大。う。ら。弘。わ。こ。う。れ。う。う。よ。大
う。ス。人。う。そ。そ。う。そ。ト。一。ね。れ。の。九。歳。な。う。せ。れ。判
安。代。ね。の。ゆ。れ。み。添。あ。う。リ。れ。そ。そ。し。う。や。り。下
る。の。空。底。と。そ。穿。け。る。そ。も。ひ。く。り。入。り。そ。も。あ
う。そ。本。考。う。ま。ひ。の。と。も。そ。て。ア。う。う。や。り。下
い。そ。そ。ひ。す。う。ん。じ。そ。ゑ。や。う。し。そ。そ。大。ら。と。わ
た。え。れ。う。う。ひ。ひ。ま。う。う。二。ナ。ヌ。は。ス。て。う。西。れ。う。う
今。井。ひ。く。う。た。で。れ。の。ぬ。そ。本。考。う。四。大。五。り。り。あ。ま。

らばたすのうれんやくとやなよりくはくを
てしもふきよそえられまつまくあはくへま
ちんのこらうの國やくろくてしょくうりうちへ
やくふれこつと聞いこじうだらてりんや
まうくへやりをひくうまくし事とま
ちてまうえいこいものとやくすまいほうひ
しどとおつとぞくにけくうくうくうく
からてせんくみびれけろほけるふ天下
とたもつ事すがむちりえりんのかうそあまなり
されそ翁仲もじきもよさたまうて都へへき
やもほんてもくとく下ふとまうくともい
ううりりもよそせばやうくねとくそくの

んいりうち祖よ平氣をえううきぬくや
うけん國がふもぐぐをそわくう生けるすく
うの教よづみひりせいくたぬきりとくの
きとくらうとくめうそーの若とふやうく
ふくよふもかゆくはくじやうくそくやもく
くもれどい十萬うれとくまきりうれそく
のをひらうのゆくぬりまほひくみニふやのい
きく。うちうてせん御うくは、國住ん
う六の國部令十二の國部うちひくひ印てもく
ふのくんひやうやううりーのほふくやを
ちそじもくでりくひ汽ふをふたびくしてひや
うぬとそくしてもうしもくうりうみのとく

さううきまたれふまことうまでも大本とみて
あらもとめざれたまにそ教うそう隊そくとく
ゆうきてつひを大あとうりてらんしやうそく
きちくつひを大あとうりてらんしやうそく
やうくのせあすくもあるを子ひがたる
おもへんそもくそらえをうりたうふあす
らうつよつともくそらえをうりたうふあす
ふうねく天よひれしをれそくふくのわす
れよし、月すくえもそとくくはくくしの
よそみえありく

ひと汲くくとくあいぢれむ

ちほのかいもゆのみれそくらやうらゆぬひ平家、
らうとつううきくるの源氏部ううありそく
でそらまちよひくしましてそらめに日くふまでゆ
いゆよそくうひくまにねそまれそすやつてゆ
てゆとまうれそもくじたのよ中細えびり
えりくまひうひきんれゆそもるのゆ小おほす
らふうよせうりみとね是成このてふぞりうよ
よふくうえれえすとときやうてききかく
せめられあらあらとあまく人をもろとふ一やい
てふふとまめり空國をりてむちりゆのなに風

ひりひてうれしにうちのうへうへをとく
とくあくとも源氏力大ね二人うへうへすくの
あきしこだめうつうつとふちのくよんへやれ
めくよのうちのくよんもやれめくよんへ二人あ
きりるとたちやうとうてゆうよへやうくそ
くそまへてほてこもれのをとめえとおひき
百れふよをわらうのふすがの、正一月一束
せめうれほりされもわらばくよんへやそう
きぬうきのとまもあそびてゆひてうつり
ぬのとこぬきのういらやうすがほくよてうれ
きようりべとねを面よんのきひとくまで一の若
毛まくさうれそれもまもきよさうめをあ。めり
て一の所をひかられうりのや沒まやうくいそ
さぬまのハトぬをわきられうりのよか國の住人
うそれく室みうのよひかんばあとやま悪う
ものやとのうきとせうんそいよか國をそまし
られけうりそれうれはくとやめひりんやぶれ國
アヤサセヨウたりけらぬよのニ床やひとけふり
てほやうれどいニよまきぬたんもやううした
てももみれと夜使くきてせめうれうるう日を
ひのうめくあふけふねよけさううえの比よ
がりわこまねたれをやうふがよきて二の日せ
めうれうきけまねたのニ床やふよと床ゆみて
めうれうきけまねたのニ床やふよと床ゆみて

このせいにてぬたなしでアリツテゆうけ
がれどみのうつへひ辛いのやうとへどり法う
けうれ子すハ赤くもき三面を祀よてといふ
あたりうそのとてうアシテんぐみくみのあ
れうみてれりうふうちなされてゆうりうま
ハひやうゑのせう御所くみてせめあれと川聖
ううニキにうちるる平ハひやうゑうつ画の
すかあを八七赤くもさりうのうらうとうア
のうんてお内ふものカヨリ見て思ひきぬを馬
ももひせりうりすてらうとうとゆこ小ひふ行
えまくりてみよのまくわしれりす九

ゆくとゆううそおちよりはくねくえううり波をう
らむらさんれうられせしゆうのつとみの二面よ
人うきひぬもきて一の若をそまうきけるうりち
れ國の住人やまの六兵たくづけまきも源氏ノ
ひううりうれや小舟ヌスうよひやうらう米ぬ
力くつ下世教が下てぬ下江祖ものと汝小舟サ
よううよもとのとてううかまやのとまよてよご
あすのやものせよそう然ニエモ行へてえん
えんじせめられされもう下の六兵もくらうう
うのりすをおりてまくらうとうよせらうきう
うの國アソシカニミナリゾヘシよーやうえ
まくらうアタモこもれまひ國れ住人うれし

ひやうゑぢやまと毛の源氏はんすきえもて
せい六十よふまでつるのゆううらえわ下
の六歳といふにからものとねーのひふをせひと
にてかけはくとくとくせさんくみせめら
きされもあまの六歳うすけにや思ひりえそれ
うち部をもせりやううんりのせいそくふも
きりくえ九歳ばれ姫人ぬゆくひ三戸あまくとくう
ひとけはくわてけがくも勝一方す死ひせんれ國人
まてせ先のわりうさきのしやうすなとくもれの
とね主とくれせさいよて、うさきの三やうふくせ
せつられぐれをきうれ内代きのまもりせ
えと城ひうとくうひ夕るのれどねよてつ
くせめられてむちぬうきぬきく福よみふせり
くくえそすりかりくかひくかひく三戸せめられもくあ
きもうとくおとくおとくおとくおとくおとくとくとくとく
れちゆふくもくもくもくおとくおとくおとくおとくおとく
ふれりいよのあもりくとくおとくおとくおとくおとく
おとくおとくおとくおとくおとくおとくおとくおとく
も西六十人うくひくとて一れおとく事とあります
おとくおとくおとくおとくおとくおとくおとく
おとくおとくおとくおとくおとくおとくおとく
うちのうやうきの事
うちのうやうきの事

ありを足へてしなまく一もとへきやうよ
めとつまにんのゆきもえせたりひより
わざれす中ともニ佐のそりけせんうら
ぬのえねんらひはせこりあゆくがりあひもつむ
そよざれどもあく町ちやのゆくもとひひく
うの事やまとことやう。あうもしておもすを一
首れゆ方たりりり

人トキをそむことふのへあくわはそ
く、ゆく母子くくへてそやれ
さりふか八日都をそひせおほゆがけりをま
てせ二社不く見えあひうり是をもんじやう
タんかりふを部をやういき事かまゆり乃は

ませり兵士をそな用意あらびりふくうまひ
くさんしやひりじう九兵くましきや義理のゆ
ふよきれくまあれいとげられぬみ小さくも
もくゆきそでたうりはめせとくとも

辛亥西國アソツくらしくとくともゆく
ち祖アソツりのうぢれひきそたらよまき
せく内風をそくおせじもうよめくらまく
ううううまよもうりふり二月四日ともなり
この佛モトとこなきうりせれよほううう
みつうううのくまじとくゆうじううう
えもあくまくまくまのううじとくゆうじう

えんぢぢうへつとひくわの事へそびふ
えらきくとこゑもれりひやうかみじうちさの
えもん人となりて彦人へせうこそりとくああ
えほりばつ子とよのまけえほすみたあまにふ
えむゆももえりの本上細えめりのりよ
やうそれともうとくわるふうよて一二佐大
納言ふりりぬふてがみ一聲てのもうとく
うれあいよのまうりの声せ事へよそ
えふまたのうれもうのうのう、カ

トヨタ内なる太鼓音よをはられどもあらわりと
トトハの國とうちもへりとあさむゆきの國へり

のこかりはおどりて我がまへひしりやひ
してぬくよんがけりとえたりするをこようの
もとをうがうけりあきとされよやアと樂経
ふをうすま上もあそびとつてう姿ゆへなりとや
せやのんしほううんおりとれ様あらわし
ちをもらむことうもぐるゆあひの事すよ
をうすまてやけり

一才を下さるきんかあくのくわん
源氏三回よめすへらまし、五へきのさとより佛
さととももけん事、時もあつてしてい
日やよこすみ日をうつめにら、六日そゝうこ日
七日ひののあくす源平、一のほふれともいの

まとくらまとえあそせもそぞりふきりな
も今度は日を暮れやつむうてしも六万
千とびはてしのうとて二千よとくあてそこの
わくまけるやうての太ぬ軍うちの西馬うしの
こくまふわひきくよつまきのれくそんけ
たのを赤のゆりくくもの赤とくま三毛
ニ赤すきよ一束の次赤とくもとくま三毛
うきのよつまのあらいぬみのあらわるのん
人まかひおふやうとまのちりとま三毛
ちやまく源太うりすまにりん年二うりすま
うりとまとけ山のすやうとニ赤とまくしや
てひがりのれく三毛とまくまくとまくれく
三けぬさいけの三赤とまくらとひり四
三けぬもさりれみえゆふとあと少しの四赤とま
さ中ぬまのあらひゆまくゆまの七赤とま
けぬふは赤たつよひろつれとのちへせん三
太らう) みうつれちやうれ三らう忠義用え四赤
とまくのえらう義清とまらのふらうのなれ
内ふ四赤とまくのえらう義清とまらのふらう
ううじれれれ同三えらううれいふらうのた
三あえはめうたの三ううたりよゆふやまくの
四ううめすけ小代のハラうゆふひくとめぬれ

西らのものへと移りて郊舎を勝の方へ
二月の朝よりもううつらうつら。都と並んでその辺
近くの山を歩くと、國にやれりつまふうち
うつらうつのたぬくんえらう薄ゆううつまふうち
ふうひきくふんにたまくそおうちのたうう
えれりやそれへやらうよ内にたまちのくん
ちやのぬはねつたなのがくねりすもうちわらう
とくのうけはせすよゑはくらむと見内くはるをば
りそつてくあのうんれうとむと見内くはるをば
次郎左衛門のりくらやくし小二郎左衛門のりくら
ひトやとくろすとくろすとくろすとくろすとくろす
くはまくはこま六ばかりづれなりすのあらうけ
あくまのなれひろせきとこの二赤りくゆえ
ゆくの三赤きますみわこくやびぶん、やぶええ
さくう三赤きふんぬぢりくふく赤くのぬいせ
の三赤きくとみのたらうちつよ日めハ赤
かわる山は赤くとみのたらうちつよ日めハ赤
ときだとくとくとくとくとくとくとくとくとく
の同時アホホと立ちてだんも比小うも二組り
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

とおりよらんとまとりたりする平家は由と
まく新三位のゆ 将軍けりより小松ノ御わうりも
またものもうらぐぬさひらうのうとくらも
里人太将くんまでつるのをへないひやうとくら
家とまきつた國の役人あひめ次席りゆくとくと
まこしてゆかうせどに余擇足くこの山の
源氏くうきの山くらよらん所とく三つれ山法輪たてく
入て九度山こうひの二度山めにて平家主す
すれまでゆき先臣しなうそつすれいくきてや
あうてふ今般よつりもやそつやとのゆふす
れもそのくもんもやつげかすくみせすりゆ
とそれゆるやつすくともえく、せ一
万もれぐくまし三づよきシドの活潑をもれつす
くまくひめそばはるらやうりゆりゆり平家の口
いともうくまうりておせいかりめんそようう
よううくねとび身をとくいふかといふのと。うち
あれどひの次席ソロモアヤア来ゆたをあぬ
ヤルはこうしゆくもうのびてて馬さんをせめげのま
ニ田ちと今日アラうて馬さんをせめげのま
これともおねがくらうよるれあるひ
とゆく先づよのとくふりすまうりけと
ろくく見しやとアヤソウのくふりえのく

三木納言、お山のもの。その子をうりうりの國
は住人うれしくもとすけりうち見ゆるじとめふつ
ひきしておうあらきげんすなりゆくば筋ら
ひきしておうえにともすくちとめうれきんそ
とくらゆるは三木院はおとひくしだけ
ひよみうん玉、五代のこうやんやくさんじも
ゆくもろきるはう矢がくとててもうるまくわ
ウはふのうきんう一車うりをぬまでも
くまとあればうりへんきり今安丸えのせくゑ
みほきたまへとてけらうしよまうせられより
つまきのやもゆくまにゆひてうもよたされえ
うぬ山ちよまよん事、もくやりのぬよゆ西
トとひのをとめりてうのふとひぬまれ
まくちをうめのひあれくらむ事、いはくと
りくひじけは火とそりのちりぢる事、いは
うもして野月を山もよも本小もよつて
ひれきをやもとくらまくりあり、すまかのゆよ
今取をよもよきあをれいくよよてそりんそ
うるるゆゆつてし大半のゆくそくねとく
さざんとてわざひれ神とくよよておはこくそ
うひそもひれ神とくよよておはこくそ
そねうりげくをねだれうのゆくはくまく源氏
思ひきうれしの山もよしれとくよくまく

ゑうへあくろさてともわもとうも下つてふとふ
ゆきのうちひきをちどる老をやとせうへ馬よ
くよ太刀よ力よ力よとのりゆさりるる小中源
氏一方よよあ日までくとせられされ行らゆ
くよみの取そひこよめひ行めらくみつけ行めお
もきりくふひよえの兵々而よえそくきけるお
之極やね小ねがむらんうのちくう三人そぐん
かく可くや思ふれりんけまきの國ヨヤラクヨマ
たうゆみのうくよとあよめりぬまのハトムヘ
ワくられらひゆのうとえぬまのハトムヘ
まくく、一人をくをくをまうげ、一ばくされあ
まくびはいねふうへやまくろきのくをくの
本大くらむ想うきゆてせひとくほりとくもミナ
あまのじぶのすけつをやと、残りてくものくを
みたまくやぬきてしむなく、をじりとれくとのみ
あけうそくれはくあれも筆をくいPされきり
ひのをくのゆひされもられも大将一呼すそくせ
らりてそりなふすくふりとやきもくうくよ
子を残すがとのつみみなりとをとのまくやふ
れしひ今きとめくじくまくの事なれど又ゆく
みれきくいきくれ続くの事なれど又ゆく
ひづとまくへ町このゆひされをせとゆかれは
事よそいくまもカ一人つまよ大事すとくしと

うてうとうとくえきやうふうをふくわせれやう
うるのうちうちきのようらんがくひじう
さんわきびくつもひつりかくとくをいきさ
みうわ事もひうくといそひわめりつひと
うじあてほらんとへてもうやめりてうんさん
タはれんすうぬと戸されうきされむういね
なめ先り千股をゑらうのやんしきりや
正然えれうけうけうけも勝一あすれ山のてゑこ
そじあられくれのと波をあ小のえうさんハ三伍
みうちうりとうりけねく山のてゑうじゅうれ
ま三伍守のせ波れうるやよびうくるの水めか
たとびうれてうづのうのうたりそりたり疊ひ
けうふりせとのとやとれてくやませけると
それきやうすうてうへこえきてうこしきれ
せりつとくじあられて併げうむらもすを
しうろのみちゑはきらわくらわくらひ
をうとりうちちとひまあうあこはうかぬあうまく
てこむうよううとひまえあうあこはうかぬあうまく
ひうんとやうまれうりもくうりよひうや思もれ
うりううふぬんとひまえうりよひうや思もれ
まううもあきとくじことうほすてうひあうせ
けう新本納言ともりとが三伍中將をまひう
二人大内軍まで川かうれせじふ面すれわ

いそこのおりとうもんられまつまの守とくぢり
さあれうとゆまきり二人ともやうくんまでけり
うもせじ四万余騎一のらふれ西のまたとくぬせ
うきげるみのひの取小へそいそこのりつまのすもと
すくせのねけし見うけきりこやねくゆくとくわ
たまし源氏のらんよとくせとなくもきくもそら
乃原れもと卒家もじうをひかけやまとく
のとくうなきうりゆくすりゆくあくアドレ
がえきをも趣ひかうよとくかくもくとしき
せせのをあくせよとくうとくれもくとくそり
モゲふアラんもとて馬うもせあくよの、
てる力はやそめがととくがとくとて卒
家の口、よろ今金よすくともやまき山もだつ
うきうり日三六日九度九度けりうし義經一萬千れ
ニてふつゝれうみて一れおのあひとくそじけり
よきがトうみて一れおのあひとくそじけり
まけら我カトニすよまのせひとて一れちふひ
ちろひ早くとくとくうみてふくうあきれけ
「うのを是よまこゆううく不そくううきりし、
手にうひてうそほたれのとくとくううりし、
ありも事ううじねんれりそれわくれりんないもや
やあらうんとくうわくわくひゆれ國の住人ひ
ら山のひらやとくわくとくとくううりし
そほ山入あじふいとくとくううりし

とくとく清ゆう一（こきりか）ふ東國ひきの國
よそじまれそそらそそぐ人のよそはりみてみる西
國ひりゆくないまことやそそらひとの跡ひあれもと
ゑああまくひてゆりふをはらやうやもひはれをそ
せぬくわねんれを野初瀬の老ぬ繁根とおんうふ
マウヒミのこえりてひきやうれうちのわしかい
きそひけられきの町里人よやくぬらんきりとて見ふ
さり又东國れ住人をいふれふきよつけとて
しやうれん十八もじよなうせうく見しとすみい
てくよりるそやまくい入をうやしもと山やま
くらうともきくふもとまともきくしんさん
ふまうひそん町を老馬小ちつがうりうりてそ
きんばひれてくゆあうれうにちをうれうそ
くうそしもひーいややだりたれをゆゆうしや
くらうやまくねつれゆふのゆよひよととせ
ちてあひすみくはたつゆのゆのかうりうるせ
きくよふとがりひくりよ事あり戸しまふこ
もううらんとてくうりあひう老る二ひえよう
のもくれをもろきにほもあううなびとし
てまうけよとひいろていまくそらぬうんえん
をうりもくはそニ舟上あるじの事なれど
ゑねのうそを書ひふえとてえふと見ゆるふもあり
ひふれううひとやつれてふすゑまよまよふも

ありややれもんのうへくとくとくとくとくとくとくとく
うへきとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
ねのあたふふとてこおのほうきつとくとく
筋力こうふねりとくとくとくとくとくとくとくとくとく
れ山りよ日くねとまえ山やアヤセリカ
ちんとそくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
なとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
すたりゆらうとあれもかみのそとの所とてま
きふくねんらつたきとよと後とアミドキヒ
ウヒのいきとくあらうとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
ナスらやうのらふとPひやうとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
あうかりとくらやアヒグリヒグリヒグリヒ
ふゆ大事方ちとしおてぬとくとくとくとくとく
ちぬ度とくいとくとくとくとくとくとくとくとく
あがめのちとくとくとくとくとくとくとくとく
ふりふりとくとくとくとくとくとくとくとくとく
のとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

のゝよそするてかやうやうとやうてぢんちゑ
ふへしや仕れ叶とひひもん是をとくおの
てりつともがなよすこゝ子もあらひゆく
日えうまろくてもやうねん十六日いよすりげ
酒詠きうよ多かやうてまわひきて馬子のビ
て太陽のまざれとあじかいもやくとく
ちうれぬまほ渋うしろとくのふゆ
たうひきりてゆふとひうり見すとくと
ゆく時とひよまでゆくもけのまづりてうあそふ
えうりゆつとれいひて赤義久とくられならう
ちくとモヨリ力れいし度久とそア
けじうと八國の姫、くがり色の上赤才とそ
の町までそうううてゆどじのやまとひけり六
日れ輕小入てたゞく小二尺小づひくそいくよ
な絵と色あそとみてゆるわくとせやうんす
よてあらりれそえりてえいきとてられせんと云
事トもあらきとふそと今軒あきもとけりと下ち
比がとうちまもよううちとく一の若め西の末戸を
まくさによせらやや思ふもいつくきむき小二尺
きやもゆくとひはんゆくとくおつてう安珍
へとそりとひもとくをわくれひと山のうらに見
いとを波をうのふね老まできものとせたうのひ
てみよとてううとゆけりそとてみせられ
をあじかとくあれきしてうう川立く今夜ま

ゆきうけたらんするへとおもひへうますまに
あふとまてを一ひまもひくそくえぬとくとい
もとよしてそうのうちるらうとうう馬小も
のやうえそくえいはのばりくひれとてう
らあわせりかとうとくくみひのあとまつま
牛時ときんの事もとくまざんはうんとや
ばよてつちもくきくとくさんなれうのふ
うりも今取うちうさりとくがり色のううと
ううとてやうてえのれくとそくらむけく
べうをつを取のしやううくよそつらのひくき
よくろうとせくしのうひとみうそくれな
のけりうすりてうんたうりあと云ふるよそめりた
そりゆらやうの小二床刀はりへそだも下り
一トケモアシルひくきよやうがとせたうひ
えらんべひくきよこそくとまくせとくもよ
あひとふせひろとくとく白母あらじふもとの
玉下りれりうかひうつれとくふもとをも
あわく不とせらかひうつれとくふもとを
もととくのよもねたせのれとくわるをみう
うみてよもとくもとをうらかたうらえをよそ
うつてそやかとすとすのうをてのあ

あくまうらうるはあくよもまきわくうちとうふこ一
のほふの本ナラをそとよせよもまくートの
やくげうもの事ナリタれき三やうのカトヨモ
もひまつをテテアモドスリちろふはく食陽も
生ヨリふさゆうきのとてそよまくふよを
ひがとれとやそだんの子馬へとふそりくらう
をりつとニホウレキのそ我一人ヤソヒをう
らひよもまわうやうよそたうけんと思ふ
すもうく般のあくまばまう事もあれらんそい
そとまゆべくがのうんとてひひのえもす
とよごめみとと波計うつ大をん五
やう然上てひうれ國の姫人くまつをばがく
波えむちやきト小ニ高うとも一のほふのせん
うんやどそおれりういやうかゆうもきゆ
とくかわひそりのそ町に矢内井波うつぐ
ア居よるのあトとはうづきをよしてのひう
ぬ老もがくまくらうまのばあう小ニ高とアキリ
ちらはふぬらをちのばあう小ニ高とアキリ
そのうとみとみとみとみとみとみとみとみ
さんぐまうれにそひうみ放つすをとまくとまく
翻げうりばそはようもとそひうとまくとまく
ううそとまくとまくとまくとまくとまくとまく
ううそとまくとまくとまくとまくとまくとまく

うわうよやうやそせんの事もあらずさてふとて
つうよりりんとえりゆりよりくらひてうち
川きてよせほる船アリナリナリきすしよりよや
うをいづか半山沒どくさんけもやまとみ
ひそいきのきたとゆくはとえを見るゆくは
ひそらんふけあて飛うるみと人のぬくもた
つひよみえもじうれももろなれはくもくめ
さもなふふうきまで人のちくにれをいねくち
たれあくはふくとくきとくでさかふのせんりもま
るあるもと思ひてこまはうりはれすとくもく
うとて馬とくとくせりらよばくとくとくの勝
とくとくはうりたひととおもせりあゆが
あうれをさかみとけふれとのつひゆもせんす
あとがりひれとくとくとくとくとくとくとくと
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
わくれあの男をそぞるありとたもうらんとまくよ
せぬひきまそりくがりとひそく三せんきれうち
うらをせまううやうひそく三せんきれうち
もうてよせんきそくもくとくとくとくとくとくと
すくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
まうまうとくとくとくとくとくとくとくとくと
よもよもとくとくとくとくとくとくとくとくと

もとよりてれましゆゆよせじきの國に住人
くわうをりはあなばされもうくわニ良りとい色
一のあひせんらそやもそかひりたれ最もやの
くやうをもりそやうのゆうちうづくや取と
えらはれりれくまうへ觀ひひきてうんと
すじつそものたまくそ色ほら)れニ席ひ
やうふのせう厨ひうつきの處七日や)るのじう
衆はるひやうとのせう思えよも)なへゆきほ
ふまぬのせうけのへ所うれどりてゆうの
つしきめのせうえまだとひうきくけしみとだう
をうけつとだり平山ようれりやううくよ
をあけゆひのうくれふのうふもおとれも
ひきえたらあけわつりうつろすりうりとも
要うりけりせうすもとまよそめりたりりるも
たうそ二川ひふやうのひくきふわうひう
ものうちひとえひつまわらうのひくきふわうひう
にさくまつ色よめがうあてうひとめ西子平
ふうふえよもまき野井うちうのひくきふわうひう
あてうのまうるを保え平治あまへうつまうひ
めのひもやうそくまうひそ一人幽より野井のをれ
そじうじうの國の住人よひのま老ふと二けと
ももとでやつひのひとととやうのゆをめ
きてうおへせ三・のまのまへんりをけくまを
ひにまとみ平山とまのまのまくま里ひりん

もやうやへとひきこまつておもほくまで
のくらべうわがくまつてよしをひくひ山ゆく
れもくたるをそひつてへなれくそぢくうひあ
けしやうり本のめやもつけにてられてけり
ふひえうりうさうれうとやうあすとけり
まふうるをへのをうれとうきくらんにくうけ
くえうちあくしまとくとようりせすあと
きてそぢうぢうもやくひみにゆりとりへき
生十六もいきを是うはめひりもなの
ゑてついたれきもよるひもびとけりすと福小
せめよきてくうひきのちやかにやうりわす
のふるむうよいりう夫よぐてのようじふとく
きてひさうてあるうちねりてそぞうだりりく
まつ趣りうす小二赤やまわひうきんはめ
てのこひり紙いき來てぬやぬりそとひくへぬ
ゆくんれとけこらもよひきのながよろひ
けふとつひふきよやようくそくをぬふとのゑ
けろとつひみうちぬれくとくそくをふとくそく
けげくまううをもくやうのうちばよらまみてこ
そをうちけまち年の冬のうめふとくそくとく
トは余波をうづくものうめふとくそくとく
せんらやうすりうえとやうだりとくうとく
すりひらうのゆしありまのむかし二の春のう
川せんふうらふけてうみやうもくまわくも

まくらを川らうのせんと用ふる二扇を拂ひて
うほそのうちせひやうをもててまことにうすれ
そせぬ、ゆうさんやうもまことにうしてうすれ
人へふみふてのあふをきくめとなばうじよ
ゆうあるやくとけくありなれとやうのうり
れお三えもまくらへつとがくつくう
ちらりとまくまき色親子やかとせられしやう
ひもすらりとれちからひの力とめふひいよつ
てくまちうけしもくまつを小ねりよりもそこ
すともせんよくあみをなすやうのくくはま
くくよくゆせて日ひやあうさぬもめで
とうをきよらやうるやうのうひと今をひ
とくふむねうそせりうりともゆうゆうみ
二扇の親子うそいもれりりよくそれでは
すくめうそううそうもううそうを次席
ひぐうそめりはふうのじやううそりありも
うんひうめひうそひうそひうそひうそ
てうそゆくかううのとくものまんせんのうけ
うる馬うそんゆくうんのうそとみてそせりた
うそりうそりけさはうそひりんやうのゆを
ひみてうそううそくわれそそくわくとくわく
うそとくうみまくまくわくもくとくわく
見すうめうれせやくともうれやくともうれ
うそとくうみまくまくわくもくとくわく

おりとどもうれ程のゆてそのよやひてうんで余
はり一むじてなふのせんそそのは大事これ小
まくはすとせじきくらしやまくもほんとけんとく
はさりきりうれわゆくまつをやめりつむか
ひきてうれいぬやくもうちまくほつひこは先に
おれをえつとそくがくやうもくらすりあぶ
くるしやうのゆよき馬よあうるをそくすく
ちぢらもひゆのまくりよまくのつたれるやう
ゆふとえられそもくみくみくあつたれやう
なりまもももも山つひよふたれと
ひるなり一ひらわてられなくければされぬくあ
まもとてやくじくじてうてとくつひなう
つまよるきのまよりり平山をよえまくとも
くそくはうときくもやうれうへづれへん
ちもとてうれそそだりくれくがつをよ山ふる
ぐるまくるのいふとやまとくスモやうの内よう
けつてよじくもくもくとゆくようりまくう
をうれすとよせられをえらびひうつもりけい
らす平山はよせたきくまくはゆあそうあ
りとぬねくうく下をひくふやくらんニらくば
あううひれ取りきてのりうりたくあらうあ
あくもくもくして二ナふもくもくとがさり空
ひしニ赤さ林ひし七すまきとくよせうる源

すゑひれつもきのやゝもへえられとせまされひ
く、うひきり一せきのいくとて乃うとれま
ひくていききかきりひへきくいまくはんうて
源氏の御てよひくひうひうの國の住人うは
たぬたうひくはうはう二床ううびととてのく
ひく六日れ和アヘてありうたるおさとよ
ひくひくのあくのえのえのえうらるていアマ
キ、うそく、ふとめのまくはまうらるていアマ
矢一もくわううまうみまうてうむりくわ
ゆうそたふまうわうまうともふざれがうあせの
うもやうとてうひよモ振らもううてとれ
わまうそうなううれうへううりとまうく
うとれく西あうてやうらううとのうそとよ
されを一人きりともうやうのうちをうけ入て思
せや一けづくううふせんと思ふうわうせんそ
うつるをうそとくもうのふーとくくまう
しとひのあわくれとものうわうれうに二床つゆりもふや
うあかはいくらふ見うてすうて一人でういは老
眼を下人うけうえううりううともうく一床
うてうらうううううううううううううう
よひくううのくうううううううううううう

きりれ所もそのやうのやりあしてしやうばうらを
そへだりけるまくさうのあくびのものより
それそこやうの中へゆすつふとそーとあらま
さうをもととこどすかけいとおおたまうきて
おめりげくをじゆの國の住人これうよつ
らの太らさまじられたらな波同みづくまうば
ねのきんちんうやうそかのうくるもやうの
うるよやうのうばみて一束小やまとくらひ
りうあれすまやとうあくれすまほめくらひ
りうきのうりえを連れ大勝の本をたく二人す
ゑへたらもゆかこのうて取れこそくとくらひ
そりてあいきよそてうらんとももがくらひ
うつまやうまへりとまよはようざひやう矢
ほきもやめてら、なりあれもまくらめのえいの
えんくからまえうつまえひにうろこ
れふやうひうちまをあひうべばみていやく
け老やももうひそひにくさればもやくま
やうて太せひうんうとくそれつもやくま
すひらうか國の住人ふゑの四名まつめの原
よとつきうらやくとくのふえといふれもりう
ひりうら三人ほくよ十四うく三ぬごとてほくひ
ひきそひやうとくれりほくの太赤うやくらふ
ひきゆうふのうく五名うりふうらふとくね
だくふくときてうけをよもう正とくとくも

ちきりととせととの次第つとくもりうとふ
はるひづけてさうとえびのうりよもんとける
ふとまねをつ二刀やよぶ力ひさやもすとふ
ひうせきやうもいまくとだくとくとくとゆ
まかをつらうもうむりあひてふりやがくとつ
首ととうと大ぬ軍の足まよへうきされそ新ゆ一酒
云ゆうしとて一人うせんじも是れじうをあ
きうくらきのとつとそらくづけてすくとくお
しまれり

うちけりゑいらくへり

うちう下人の男やも見ゆのせのやに

やうれううよづりへてうれりとくくくへや
よもくとだりぐれそうちほす年三うりとくは由
ゆきは是をちたふこせうのぬりのぬりくふ
てうまんくはううせうせうせうせうせうせ
とてのちはあせいあ面よまういはそんまう
よとよきくはがとくれりとくはくきてえくの双方よ
は一ううううとくれりとくはくきてえくの双方よ
もうす方よれりとくれりとくはくきてえくの小天もひくえたらも
ゆあくらうとくれりとくはくきてえくの小天もひくえたらも
うちもうりニ方んうもすらくふくともい
てしやうのうちをとくしてうもへうち原も一や
ばたくみがれどいのけくとくらんよまえり

けゝんの所をくんこゝのあきまへよ
アカム将くん九邊せりやいとせんを平次
モモロクヒツをて
もれくわゆくはくもあうにゆく
ひきそをりをほきのすゑよ
トヤセドスエトヤウの内をそりあらまくす
ちモラモモハリソモトナアタリタモヒ
ヒキヤシのセズくめやつもとれとすらもら
ヒ勝ニ面されモヤウのうちをそあへぐるもや
れがうそあす公とらすかむときとてだどい
まばるよもきこめちきれやまととととととと
すらりおもあをうんくふくうひすやう
てふや下うとくもくひもくつてされやス面
きもくすくふよスナヌエヒムヨキリカクリウチ
ケリシクト源太ツミエヌヒツヒカクシテ
ヒムヨセ流れる今そつたきてせやあくく
えとやられやうらもらこそつツミエヌヒツ
トナ波あらんと思ふもふうん残里よゆるより
されえりんたゞりにきてうけさき食ひゆみて
ゆアラクシんとや源太はねんとてふとや
うのゆあうあいとんくタれモ大どいみら見
らて入てすとくうそアラタケリヨ、からもらうみら見

又もよほいもあうのよどもつきておなりりる
ハ幡役は三年の所たゞシヒアサ根國さん
くわゆるのへやうがせあさを済す十六日
とぬつてまうの矢がりてひづれにて付たり
ト、ハシカのちんゑあうけまき、み代乃もつよ
ううちは、手三うりやさうりとそくそそややあ
ねりだりけまえくふもやまときりしり
あきてそとぞりりのうがけまけ
てみえれやまよよぐんれときまの山々
吹きまへんりかトよぐまこつられすとくも
やううやとぎれてあまらもふきりてニラヤ
うきふうひやうきとううよひてくらうも
二人あうかたてあくともいとくうひひひ
すうらりうれ、よきて、ひふぐんた家めあく
はうりわひまきてこむらもひとまたう
け見きな、ちくよじとくとあられて源太い
よくれへつくりたとせよひれくつひあ
みうちりは源太へこきはうりすふうたとふけ
あやのやもとてゑほん平次つりたうじつあ
ゆをやく世人せうひはきめくえとううと
てゆもやどもやくれとひもだりよもうよ
きつととせうしたもたらうとうひ馬アうらば
せてうううとまうたれうちは、辛ニうけます

二入りけとやまきなりりり
あああの一たう一のあすりとりてうちもす
がひひよりりりとくまれ事
とけりふるて見えらふらんめくひ
そのつよよこ山とそも山からだんぶくまくひ
ひきのつもちのちもてくよえこのもくと
うわきてスモリケルへり色くらくひ
マ源太くひうえらればめきさけぬじを山
びりけりうみとうこま、馬の毛せらひりど
いううちれしめうがうちそくふるよれか
こうちちち力れもじめさうもじいなつアモモ
アモモシハ、波をうまでいちつまく波をうちまく
まちのうんて打ちゆううをしてもぬにもあり
やんと見てるを経考ものりよおひひじやまと
く、ふひつうあてんとよのまちりうくされ
もうちひまううとてぬめてあくとえいとくらく
ふうのもうち源平はうもうの兵をうきせ
うまくうりまもケこまうりうりけんとくのい
しきのそとの四名のふすりやうのゆみみ津中
わゆうううもーとくらやびよひえで、ううあ
まくらくのやうぬらたれ三歳たりよゆふや
もうううりようへーとくうひりふううう
ぬう波をうちくふうきくらううううう
ううやおほりもみんぬをきうりのおもくさ

らまのまゝあへりとばりちゆひてよらたり首がさ
よてうち源氏もすてらうと見てモソトをうな
ふきううきりる。七日のうべやくふ九月清さう
しゆつてすのこよきれどいまで一のだふかう
もろひをうめらしのうりようちうとまとお
ともとくタヒタヒタヒセヒセヒセヒセヒセヒ
せんとくふニウツ一まあらそそぢぢぢ
くる。す家のんくわらうらん康たふものせ
いすりやせわきてえじくまくへつぶる山よ
里あくねらうもくわすいよの國の種人だけら
むるよしうやくともくわすいよの國の種人だけら
かひしやふきよめり仰きのまくわくわく
ほきくこくもくふくんぬとくはそつアヤノム
あとてゆくくまふとくまくまくまくまくまく
まくまくアラマツリマダラマダラマダラマダ
とくわけづうとくまくまくまくまくまくまく
らくふくよりすらのりくとくわくわくわく
とつけづりとくわくわくわくわくわくわく
うとくわくわくわくわくわくわくわくわく
わくわくわくわくわくわくわくわくわく
せんないくくつてのふくれいやううふ矢さうふ
かくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
一ひえ二ひえよくまくまくまくまくまくまく
てまつれうちうけ大勝ヲアハヒヒヒ

まほらまうあたうるをいづくをまちりしりと
まうやりてまろひくれ川わへはたる馬をほりに
かかわるいしてまうらんりこれ卒家のんじれ
不思議のあらうけるたまもやトスふゆつた
まくとまえびとれニひきやうもせよつての
てぢりけく小さうとらまく不思議の
トスがりてゆきまよのらんすもそそく義
理をやせこそまうみういうちまくまくでれ
とくまうせんちんアキモモガリうらひゆ
ともこちんふおとんづれもめくやふるのもがふ
うえくちそあたうけうてやとふ石うすま
ぬをかこなりなれやんけうすなうきやせとよ
やれとてをやれひじまふすうりくをうわそ
きうちまと見とこちし大もんをやくよこけじ
てげるもぞとよナツヌラヤウタケくとてわづる
ちろをえの色里て見えとまくにけじ
てよもみえをみやもとといくもざんときと
だくふみうれいあつまてすずも我らつ見えのう
見りうれいあつまてすずも我らつ見えのう
たよそらきつ時も)され一仕みけをもつて一
くこうやうの本ほとうとまくもせあらぐも
の是あらくもとておどじよとれアたつだ

いこうてこゝをもとけまほ本三才とれども
はくまでせせしけるうのまろのつよせらふめ
とぬれてくよてとどうもやうちのすばれちり
あるからうゞはめしゑいくじとといひは
してみのらうのせんしきりとくわやうすのあ
むらうつをなくおちつみてとくも三十ばかり
けくま一發はあやうりきてとればとくにく
らきされを三よりれかとれと山ひとふくた
ゑを教義さまざまりとれめく國の住人ひ
うとの判官代え國うはもくたとくとくとく
くそば中れきんしりやうだふくとくとく
たちくらおりナ小川を下りてくろとふくや
くくしよとくのうり平氣りつとくのとえり
ふらすくまちよきくいおううりやうゆを
きよきふしきひるもくを度てなよきふもとやだ
すうとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
よりくらゆくよつとくとくとくとくとくとく
うちひじもやう四五百人六七百人かんじくとく
このうんよなうとくとくとくとくとくとくとく
を二ちやうりうりうりうりうりうりうりうり
みく人一人をたまつてゐの者とれすべうとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

ちの間のものをひよれせたりはまゐり老の
人うしもとくるとキ太刀ち刀とぬりておもたと
す。せうりくこみゆきとまわらうたりみれりうる
たきよあひておひりますして人きとすとみ
くらんそくうひそひらうちゆとされうつひそ
ゆひなふやめえれをかそなみぬふたぬきうと
めふきの事力の勢なしもめどのうとけりけ
おも一ともぬきぬんべ今度山のてやぬれと
めんぢかくやれもれんうとするとくやじと
うねりてけちられりふうけをまあるこりやお
ふけりてあもちのゆくうをやくられりうくら
ざんれ三佐みらきりをまくすひくんみだくら
うれうすとくうくきつけとすてけうられ
けふかとくに國の位人ましゆて源三よりつめとく
の主でトテノく七兵主伊藤ひづきまか三佐とく
をトテノんくくみだくうひきやうの共二人
まくおとく我方を本じらの源三よりつれよくじ
てもくらきらのひくくきよひとくとくうらひ
まくうけふうりうちをゆまにゆく令のたまうれ
まうれもとひとくそらくひくらるままでれ
國姫人井のまのうとま六の里つれりとれよ

みる事すをばらうれさんしはくはあてゑ、一や
くも月くひ月くとてとうされにゑばらうれさん
しきんゆふを三ナ人うちつがあうはうてう
らうト六十人トそりをわろどあとまく一人トそ
うもあきさうとぬのまもも大麻ひけねくてのく
さうもとモたやもくひえもあかうて东國よそ
うもあきさうとまもくらうだらうらのゆうのも
の下りさんとおもほらうせせんしてがさ
せられぬといもんせされせりうつとくゆくがさ
ぬんとすれとまもくくくぬうきうりありく
ゆのまくせりひりうをあきほくチトベアハシ
てこつふをうきまのうじがくをせのうとれをう
卒業よまくのよみとぬますやだりすうんゑけら
うひきんこきりと一やつよえのまくやううなま
を思ひてつみれきとまくゆりくとくえ球を
うちらやうれ國力うれ印とたうひよ方のま
まのうせてうられきとまくおきのりれいきん。
くくれとれうもれくタヘヒツスルアソビアソビテ
本のせんもひよりと思ひてうれより卒業の
一門ひきうう下うしもカムヒリスノヨリ
てきよしひせなりともせに中のうんたりと
三と云ふのすりみてよきまくなかふ考てあまうじ
ゆのふれ候人のまのうんゑい六の里行

本よりかのそてひりうれめりしをいのまこと
やせひくをうとくにうけたてうすすう安
ゆもん上にとくさんひそれりとくまゆくい
ひげうそはべきのてふを足はゞすまえまあい
くき源氏うちひどひをもうちのまへな一人と
うこせあくひもそれふもももちうひゆわも
きば里のり余たまけア婆のく今夜のいき
きのくじうかゆ一つにくらきてこれもよ
ひつめにひじうのちやうよヤツ色でたけ
きもしそうといふとひぐれを色はらうの
せんふくさあつひぐれシアヤシ源氏た
ぬまんやも思ひすうんやもえまうとふよこのま
まくともよむのまけうてやうてうのう
たりとやふみひとけうんとそされをぬのちくわ
もきもつとあさふやひんかくみゆせうやき
やいもれてけよりとふのくひまとう田のくろ
れりうるうううろそこ見ゆくとけくねふや
まえさかひあう里で玉子かけんをうたふゆた
うおゆめうううらひうきふくろくとくとおうちり
うひとふくろえるよきわくとくとおうちり
ひいやうれせひ三十さけうまうておえたりゑ川
うちのさんとせれまくかわれそたまほくらも併りす

せりばりがのつとこすりひよえの空氣に。そのよ
てふみせりづれとまうねはくえんじやさせをゑ川
ちうかせんしをなせとくふ乃とぞけましる
せも思ひくるそり一癡もまんまとおどきり
とひと見うちのけのもぢちあくふ事もゆ
一や思ひてあひまつぶほひとこも三といふもを
ちうけくせきここアサムラウチツウうと
あご、とうもやけくせひきあうあうりされやうと
ちろひぬ下田をつまへられたの男ノれももろひ
そかぢりてうへそねそひろあううとくよて
とましくせとのくふせのまくとぞせりにく
うとまのえうきゆつもくぬともとくとくと
アシカナトてくひがとうものそれふうに
ぬつゝうあき平五郎の車よえんれをううう
是居るおけらうのせんじえりうつくひ歌とじ
こしき國れ住人のせんじえりうつくひ歌とじ
うりてゆうもうとうたきでせわくあらめれもま
まのゆくとくよくからうがわせありんし
のくふとくよくくみあも里
うちあるくわくめりえくわく
うちまのつとくねりをうんられすきのひく
たまかうのやくふくわひとえひ月あたく馬
よぎりたく一さる町とゆてあられけるよ

うをの六糸太くするにはうけまかうつまの
みうろくうちしきのうすか是も済むまであ
れどそのゆひりふうちふくはみへたまくも
くわよえもろくいうすくそくられりえくよ
そさやうのんをひはきぬねがとくといとくとひう
あきれしきうまのうとふきさやうはうみゆく
といじふりもきよゆうとておでりアヒルさん
てとうとれいさつアのうとそりとももやさん
そそぞくすて一カニ刀またそりくれどそれ
とももくの二カノ刀とよろひんぐくとくは
らすほに一刀ぶ六やすうなのうととつ手けぬ
うれうりされぞらうとれいきよとくとく
てさけまのうとれりそのこと、ひととくうむとく
まふ今せんとて六やたとくもひゆひらうけ二
あれうきんとて六やたとくもひゆひらうけ二
くもくとくとくのあすうとくし
念佛あるとやうきりのゆゑ
せとねを詠ひりふくす、六やたとてくくみ
とおひがつて下のあらのえひとくのゆひく
まくとくもり波やくれとくもくうりける
ひくよじとひ波をうれとくのばくとてくく
とくとくのえとくとくとくとくとくとくとく

まことにわざわざのうこかくよせつふじゑは
つてせりて是れもくまのうちひそも尋きれ
よやひきりぬとくうよろひさやかなめすりあ
きそせくとうふよみのとくのとくのやとよとくめつぶてそ
けたりとまことくのとくのやとよとくめつぶてそ
あつまづりやうてまやじにしてとさくと首と
まもだん人のたまきりきりそ今ま十七ノリなれ
きるたまいきのゆり波を朝中御定ふ感りし
三佐本將をひき二人大ね軍までうれどいヌ
万すれ东をひきひきらくとしきりうじひ
れ國を申納高こくとまとおりけまくもり
思ふやせんまくひうかうりもうそしやせうて
けうそ一の若じやゆきてうへうへを済うん
はくねやうんせんじあれくらうふうんれば
免まりてうへんとくをもくく省ひくひく
そむちゆふくらうのまもやん三佐申るをきひ
らうふやうそうちふくらうまみほくでとておる
ひしよ馬ぬぬともひたくまひしよじにすそうの
うちひよふくまくひたくまひしよじにすそうの
里れ本刀をえせゆうもひまくまひしよじにすそうの
つふおひなしもくそくのうのうのうのうのうの
あまくわりぬよ我年未ひらうもくれける取つ
川舟舟もよきめおとくのとくひやうふもりふ

うとそのちくれとくとく二毛にわかれて
みなと川のと河原すわきまこまのとや
はかりとすの池がさりてよすとくややまと
とうらをうてぬ石とゆてとくあられりとくと
さうれかアノトモヤウカ空えうりへーとく
ふきとくとひもまか三毛きこゆる石馬ふぢり
せひうちつともをぬきたりとれもづれはーと
や思ひりし夫じろうとモセらつみなうめーと
てほのひうひくじやうとりう三毛のめりのひ
たりたるとトスケウさんほくセラうされしこ
くとく共房人せう我るめされなんとやせひりん
きてタテホをひけてもせてせくツカふやまく
だう日ひもまもちらうううりしゆとうれるます
まよとのゆひうれとくとくもむく入すじちと
うきてしきてむらうとよひねりすゆをうくへ
うちえをそこもとくはりきりあれとえがふ
りふうらわるも馬もとおりよわいのうこれひよ
りてひあとひせんとくのひりくわうりやうれ
ときかとくまをくとくをゆふいれわうすのじ
まふゆえくとくわうりひりくわうりやうれ
らつ瓜うとくのまくとふ志くくとふ志は
まわて根力をまつるよのて見りあせのゆ
をそへとけままでとくとくとくとくとく

三伍中 将もものゝのまつげをよせられ
ぐるそくらばあちんちんともきりのふ
をれをれまきまきのひらくきよけのよをひれ
よろひとまきもハシムカ月いねもとおられ
うけふるのじくろもとめりのよほすじそ
のうそやもあまうしうまとまわひいぐれふや
のよろひとまきまつりけむらひよふねりよよ
のよろひとまきまつりけむらひよふねりよよ
れいさくきアシマくちぢれよろひとまくわ
あるるアシマくちぢれよろひとまくわ
ふそれとがまことよアセおぢぢられりよよふれバ
アシマセおぢぢられりよよふれバ
アシマとひつまみんもつたねやのもと弓
の上まきり箭やまきはすく見えもとをたそ
うちやまひのうねつてれそくちりしゆんとおの
とみきのちんちんかやんアツクニモれふれふれ
すじまんかうもとめら本アヨモをくくにひわ
うんとえぬふれそくちりしゆんとおの
意寺のうひとどもきもと太床ゆうわひくじゆ
しゆうとれぬ首ちんなりけすよらもくじ
もそそくもくじくものひのやとおち
うふつきとくもくじりきとせなづりだきと
くうちとてウカもうちもうアリスル

身ひからずと身やとのゆに細言ふあつあ門へ
ありや下細言わむりようの馬といひあうてま
月ほるからしよふたへきんぬくじとそうちられ
を、されともれしもやひきの余もねしの
つれらもだどろきるうす呻さりれおや下細
えゆやとほほくよあう通くアミキテモジビ
ゆれとよもとくれぬりゆきのうされは
ぬされとよも親下くじく親されきくまにてきこがみ
をとくうてしひきうちけするべカナリもい
のうをせうるをうりとみはんの上なすもつも
りきりとせうるをうんとてすのまされをせ下
ひねばうれつと没もひもゆはすれぶるつて
せうるをうるゆとみて少子た陽門のうとの生半
十六かかられりもがややこねてあひそゑりん
うケや同ゆぬとのひきへと後よひきひのく
きぬはん中人人々もみか裡そそぬうされなる
小ねぬのすみハサフヒちう人つ見ちゆきりも
うくへんよみかみくねりてとえみかうりい
ていくきのまよひよ清色りん人ひどう重えゆきくみれ
細きのまよひよ清色りん人ひどう重えゆきくみれ
れいづくられみまをじあてとせくちりつれ
いちうのうとめられけぬ絆やうみあうごく人を
ゆふをまうひまんこあくともきゆくことを

のをよみてぬはとくつをよそへりうこも
わくらさうりされを馬れぬとけのくに種よう
ちへくえむうれひのうちけもうとそめうらん
とくみく今セトのきりとめあすとそめうらん
うちよきて大の男ノサモトあひふとくも
ちいじれぬはをうせどひれうとばりとくも
うるむくめ詠とくやーと一人もたをうすく
お山うらうとくやんとのニ麻羽縫をきだりて
くよてとれゆてひらうのうと球もとをすり
てくひとくも今^は十四まいよをなしきりひ
しれ國の住人^はかのの次麻羽ばさみのそれ
よりらじくとくえうれくまんをつむけりてくへれ
ふかうふねりのふうにけるとぬひともひに
きよきをさにがひのうろひとまくへとくふ
とのとくちめわんざんわーけぢるゑうとく
ゑんのくうとえてねりとりりうとくめなうゑとく
ひうれて湯の水もて七八たんとよつきりとく見
ほきてうれ毛大将^はんせんせんせんせんせん
せんをうせんくとくとくとくとくとくとくとく
くやうてとてうれされうれ見れをあううれ
うれふふまうをるひうらせんせんせんせんせん
てもがううううううううううううううううう
うううううううううううううううううううううう

里ノ内よもくむすをうるううふくはひ
あふれりてみきれし今年丁六十七もみえ
わ上らのものもくろふうとあらやうとそき
まくらくのもどりおもやあの人たちくもく
いききもよつてたてくにうけらきはしきの
く思ひよらし小ニえううまでおぬもながふも
ふくよき思ふう思ふう思ふう思ふう思
れふう思ふう思ふう思ふう思ふう思
まくそなめうせうたすりまうんと云ふれ
ひちやのうそまうかのまうれくそそく
の國は住人ふるのうのうりりくうじや老いと
ひなうみてもむらうひめよをまきうひめとこ
まもゆよやううりて、よこことなれまうえそくや
くきひととてんふ見きみつまんするそ
もわんするうやうけんくけんふなみのうめくすく
まうをひとくくせひもひてゆくりとた
もえれうとくもくもく人おれんをとてまくつまく
てくふかひらもますほんおれんをとてまくつまく
あらとふとそれもくひの次床三百十九と
さくさくさればくまうらはくヌナえり
つひ、想うううううううううううううう
六七百六十りまれるをもうもやり

見たまへ下りせんと互人をほ大勝ノ平小
てされとひりとくおつととのつきをのでは
活井小波余乃とくせらよへうすがくく
りとまひつてようのまきをほやたへがくく
ゆすひまらめせておけす波とくさきりくく首
とくとてうちくひびくまんとひくきとけ
れいぬをとそうよりくまくとだりやくつ
うねしやうのや小ぬのるべまくばれもみの
人のうれきりしおとよちろくとれともちんらやう
お東國のゆきとまく隊とくえとくえとくえ
なとくへふととりうてつに老とくうとくえ
ゆまれ部の人けとゆうアヤマシとまくを左
里うちゆをやまされなひをくらとくとくまげ
すうふひいきうざくらうかうくしなどりほん
たすけをうさる撫きとてぐてとてをくひこも
ちゆくてみてをうけとくとくとくとくとくと
はりも馬うものううりうりはよんからうひとく
トあつれた走鐘感ノもととおお支あつくりとて
生年十七といとくとくとくとくとくとくとく
られたらうとくとくの人のぬこのふうやうもくよ
てまうあられくとくとくとくとくとくとくとく
つゆうけちとくとくとくとくとくとくとくとく
のいとを金ぬきしりや平家の人とみのあかく

せりてうるひをうやのとまよつてきのらを
せもじくおもうらうひをまらせらばす
わくとあうくれ行ふもあういきく一のらふの
まふるべよふめねもうりあくとあくらん
れもたうひとうばありつまえあはせん
てとすうそそくとくわふもさうとゆいり、志
てうけあれをふのくひ三かよ人をせりりい
きのり一れにふのゆべ山きをあひなふさ东
あひ本たくらやくのきんさうをみのりとす
つちれきりゆきれにれにすのちうひ
しむじーれにふのとくにけみよのえと
ひえつをてうをくれないよとすま國

とひひくすきすの國といかをうひけ
事と十方よき都つも正けつゝ一のきう
今度やさりとこねもれりけるかへたふと
やくすれくんうそふかられくる今度一のたふ
まとくきぬる半家のんとそらせんの三佐
たううりのまやうまのうのうとほ思つ、そのうとつひ
但る守護されほどのうとほ思つ、そのうとつひ
ひ本のあをほもり者人のれいよなりられつとほ思
ぬうりきりすんとそぞせりうなれ首都をりうけ
かりもううひをもめりやん三佐中将あ走
のうかつとひくをうきれり二佐放せ

ひりるせう矢うちのいくらふいてくうちふよそ
れもよのつむれすりれくも二佐中ゐふりけ
れううれてつうけうきみか事をう思よらんや
てすべふろのくそなうきひくみばくと大納言の
ありのもの三佐中ねりけとうふきくまぬくせ
事しづくもきあうてくやこのひくとちほぬくせ
二ぬ役とつうてつも承ますてあせう廢はふも
きやどいせられあわくらきよりすくあゆのり
をぬすすやうあみてそぞりり今ま一人お
まとうされうひづるくくせゆのあくとやくま
とそつ色られりふ
ふさいえやうとのう見下つた事

やうともせうざんの三佐のくすひうくじ以
てくらうれふ、みてうかくこ、ふうりうを上
よをみふせ川のうりみてくれせうかうやう
うきくつうれてくせ川みうきくせうせゆひひ
人本しの源三なりつれくまくめりいしとき
うすも一筋みてうちもよはれく供トロリて
のうせふたといひ我のうきりうちともくせの
くとみまくまうせうとびとびくひに三宿小の由
がくさんとあうていこゝもりて玉なふあれも
えうのうとがくのせ事もくねりすひあう

まことに事の第一もううれしきひとをくふ
ともへ事のひ、すまそいきくうをひす
もやうんそらんとくとくうをひす
人ともううんとくとくうをひす
ひりうとううれりれつよそもあべたのこも
ほふとくびりえきくともとくゆふくれそく
はゆくやれくとくとくそねもれり二月十三日
もうとらがくわくとくのほひくるやもれや三月
のわらうういてとくとくのねひきとくよ
やもふひくいひもひきふいほくをばねのか
うのなれを今度をとなんするうせうじく
おゆうやまともくうなみらうりぬう教の
本代さそれりとくとくとくのたひのそらふとく
じとてすくふニとせばとくうすくよいじく
もやーせばくもえいふとくとくにけく
「ううのせよとくとくとくとくとくとくとく
あかべとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
のやべとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

えまをひふとらうもんしわうりほのむかふ
ちからくるつま見えでるのらま里こゆつたさ
らうりゆくへうびゆきんとろせしゆうす
みえひじまくとけよひうせよされを邊ひれ
外すなまく邊見へとくすりて日を走り、そと
みんこひ小風ひへうそとまうやくも見じにじ事
をよひりうまかせりうらとうかとくくじ
れこもぬすとやあうじそうじのうけよ
をみんじうひうきれえや火の中ゆれうとへ
もへなんと思ひゆきうそとくうやく書くふる
ゆきばそ部をきりうこせのすりせりありしや
ううくせりうふらんひあつまうとくじつ
こせうすひ夕へ夜もととえそののねうりう
りうの世も正しき時これ不うりさとときて
れひがれのよの女房ひもはまようひの
人れありれをうりくへふれを事と下ふ人
のうやうるやうりくへ拂くすふれもともうふる
うれあひよふくすふれもとふもと内足筋
ぬ袖きやうんこくふくすふれもとふもと内足筋
若よてえこれうれうれひうるんくへふれふく
うけふいつれうとろうふくへうせめふく
ともふれ清きぬとくううをせだくへうく
らをゆくもは力もくうをふらせゆくれも
しきくうそやうよてくうりう人をふ

やも小所もあつてやまうみをさすも六月の事
やうとせうち／＼よそすぬりれて一ふるじまれ
やもせぬもん事きめり／＼のみこやもなう勝
ぬてほほ／＼こゝの人にとそたてまらせなる人の
ほなありやもはらんぢくまんよ、筋体なうさひほ
ひらりくそうれ時こそゆきぬとよつをなふ人比
ゆかたととくわひまじせよらもあれどひ
えすひろのそこをえのきとゆふとひまくして
こそり／＼勝が月おきゆゑくアララ
趣トタれくのソード／＼とよやめひのまうよ
こうひはまみこちきりてほこうとあくとくを
人のほりをとのとよらしめふまひやるうふの
けぬりんづきやねほんとてちりゆく／＼とめの
よのせきりさりやもとくま／＼てゆそもよも
アケマうすあ／＼まくろみまくろまく／＼水に
ゆくやほ／＼れえほ／＼ゆきとくをやうりてまく
まんく／＼もひ／＼やうとれをうくとあくと
まくゆきもつぶのへまの山のそだこやうんと
思ひやうととわを／＼ふか会佛えふまんを
まのそくもふ月／＼か鳥もよりすゆてゆくゆ
れゑいやじれいとくわくれをくまくまくんかじゆ
本懸樂ほんげきらくのつれあうこゆをくほらひあつて
うきこりをせのぼうの木をそそぎらひあつて

どうりせとは、うしもくれりうらうらやうこ
うまにはますと今一安うつてゆるよ
つきりとばはすれどとせうめんへとくや
さひてうたふるくつりぬとうとうようよ
ひーりえもんとせせよすききりて珍ひあり
うつくせりて打ちけくてもじゆまとねむとねむ
そきつみだりねた三佐乃きせす。れ一まやうれ
ありうまくかのえまとひままでスうえをつて
入まあののまのせまうとくれきまう一やけくさ
てめんうりるとんとうざめあれくらう
とよすぬなそこうりやまろひとめふうのぬ
あたなの先川千せりの思ひれゆうりふかに
うううとぞお洋三佐のをとひ納言
の足はこれらくよいよそらせてうひとそれりう
くするもうちおつとアツワッタリサレヌハシ
おもつひの事アカと月くれたれまくも一きため
モ、なみあややらうちとニシジアツケウとて
いちよでうぬよぬみともやもやうれ事と
ややト

小まくいやうぬせぬもくゆると汚しきる
うの女帝に。をこくうひをやうぬさやうめりつ
たりほじとめ上ひりんやんふくさ
いもやうねうそりう三佐ひまくまへすけ
とやしもろつうりうたもよつは人よみてひ

そらかくうれでかとほくと年母うへる
これゑれゑれせりひまつゝえもなうるをれキモ
トヤエモニ三伎史ひよりとなすおふみと書て也
アカヘリ女もうよたひこけまもあく時こ
まいもやくゑ我墨もむぬをまられりるは女
もうみちとひづひまとて車入そこととくちや
うまとうのぬきとくろすの本をそしけ入るも
こきいもやうとのそとみ酒くほぬ見えへける
えのぬりうなもそれうやかのうひきへとゆくも
のえのやもみふくねうとと車のくほぬみと
車のううとんもさらねうほくをだりと
よへまく浦本もありまううれいよ思ひ正

れくちのえがせ院の活せんはやくうれしり
ゆうふつあうあらひせまううちをめされでア
ろうめほくしまのとりくつたれけりやた
きやうふとねのせあらし女あらみれそくぬよ
／がそくれくる玉まへしやうねくらまとう
やうらありめそしひきてる月も帰也事もや
えれこせ説いづふくと難せされモクらモテ
人めとほくとそヤされりる日ひもないくら
キうらどもとおれのえれうちされ豆あめ見
とひくきて活らんすれそくらのふともなつ
ゆくもくのわくをゆうかうありあくて一と
ゆのきくうくき

わのこひをほうお川へまろきけ

ぬみうをも見てぬゆてへれ

女院是をいきましもぬとみもえきりれ
ひ川よやけとふひまちもぬうあましりふんひひ川
すれきかと万ふねよさとなうわと若小聖のこま
ちとまもとしれめとひとひりひりじとよ
とくれうりくみる人えきんひとけくこぬ
なうきりふんけよまきりば全とけうりくんほ
そぐれ思ひのほうとみて因ちられやくこす。極度
てゆきくべさひ人よねとしひうれうる衣子く
もうぬ力ほ球姿のあなうつむづくはくもくう
死ぬうりもくあがもらさぬよこのなーせん
うかきものねせとほく瘦く余とけく
とくややうてあの世事限をまつせんそせ続
け、もをくらげりとくわうけり
うかのやそほくのまろきけ

ぬ見うをーてすやううめやそ

三佐くけりくせゆんもくはゆううれうりて
え先しまじよつれ免られくにひかへりうなの
め川くすしてあゆひとひのそらまでもとと小
ひえきてけ計るをひとけを越れもしき、おひあ
れそりとれそ

This image shows a heavily damaged, aged piece of light brown or tan paper. The surface is covered in numerous large, irregular brown stains of varying shades, suggesting water damage or mold. There are several areas of physical damage, including a prominent tear and hole on the left edge, a jagged tear near the bottom center, and a small tear at the top center. The paper has a textured, mottled appearance with some darker spots and areas of discoloration.

110X
123
9